

●○●社会心理学へのお誘い●○●

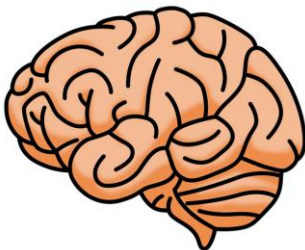
……「社会心理学」とは、どのような学問なのでしょうか？

皆さんの中には、社会心理学を「心理学の一分野」だと考えている人がいるかもしれません。心理学は「様々な行動と心の関係」を考える学問であり、社会心理学は「社会的な行動と心の関係を考える……」とするなら、たしかに、そのような考えがあてはまることになります。



しかし、社会心理学研究室のスタッフは、社会心理学を、より「広くて深い」もの……すなわち、人と社会との関係や、社会における人の性質、心の成り立ちやそのメカニズムについて総合的に考える学問であると捉えています。

このことは、社会心理学が対象とするものの広がりを見ると分かります。社会心理学が研究対象としている、主なものをリストにしてみましょう（↓）。そうすると、「社会心理学は、脳から文化まで、また多様な個人の行動や社会現象をその守備範囲としている」ということが分かるかと思います。



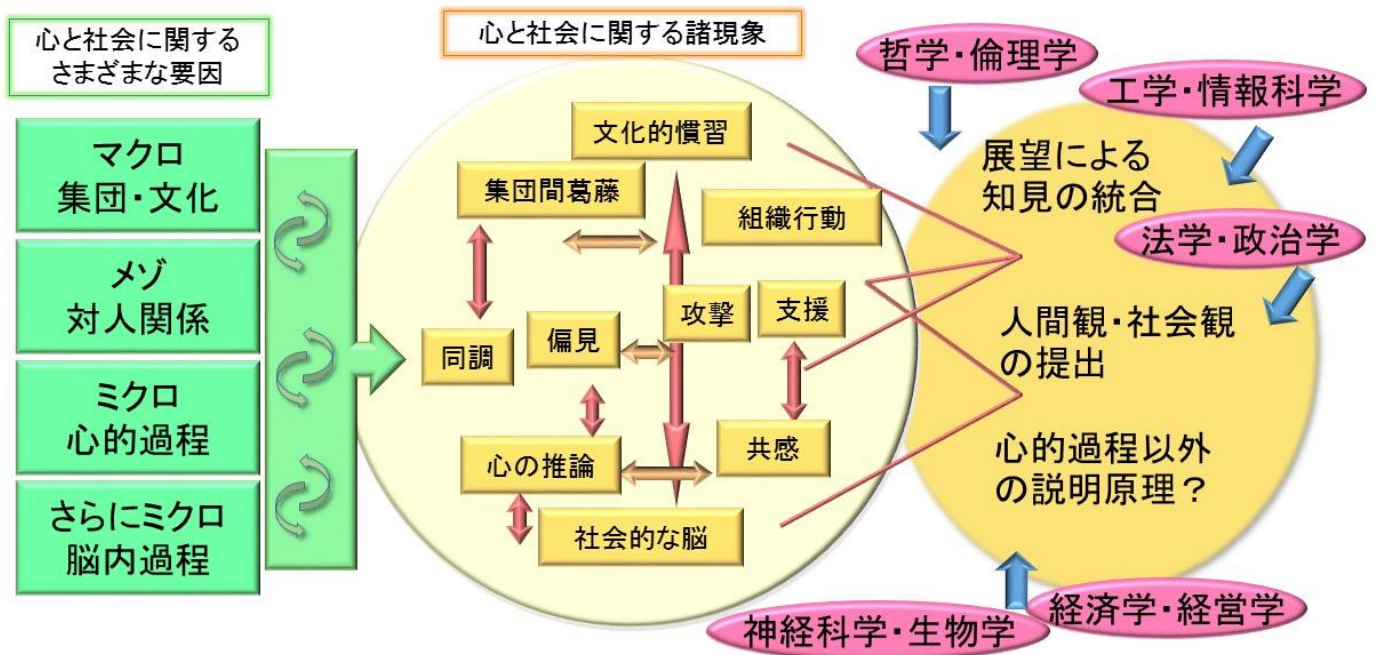
- 脳内で生起している神経科学的な過程
- さまざまな身体的・生理的反応
- 個人の感情や動機
- 推論や社会的判断
- 態度
- 援助や攻撃などの社会的行動
- 対人関係
- 集団での意思決定や問題解決
- 集団内のネットワーク
- 文化の影響や文化の形成



文学部に関心を持っている人の多くは、「人間」や「社会」などに興味をお持ちだと思います。また、中には、「社会的な行動と脳の関係について研究したい」、「人間の感情の理不尽さについて考えたい」、「偏見・格差・援助などの社会問題について議論したい」、「企業の中でのリーダーのあり方について考察したい」など、もっと具体的なアイデアを持っている人もいるかもしれません。そのような皆さん、一度、社会心理学の世界をのぞいてみませんか？ そこには、人や社会に対する様々な興味関心を吸収し、発展させることのできる、豊かな学問の世界が広がっています。あなた自身の問いを発見し、その問いを追及する楽しみを社会心理学研究室で見つけることができるよう、私たちは心から願っています。

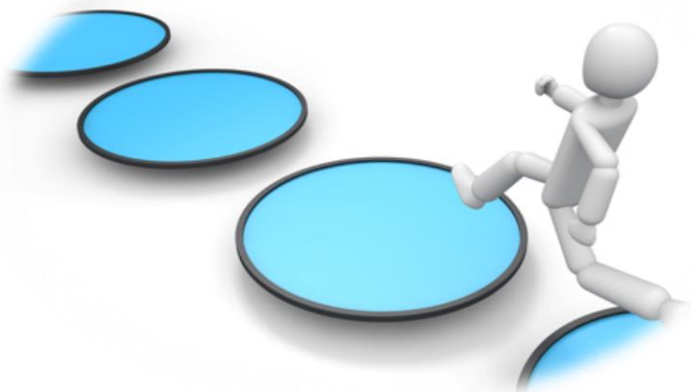
●○●社会心理学のコンセプト●○●

心と社会を議論するプラットフォームとしての社心



「心と社会がおりなすさまざまな現象について議論するためのプラットフォーム」

…私たちは、社会心理学をそのような学問としてとらえ、さまざまな研究プロジェクトに取り組んでいます。その多様性と可能性、そして新たな発見を生み出すことの楽しさを、共有しませんか？



教員紹介

文学部を代表する、個性と経験豊かな教員とともに、どのような研究生活を過ごせるのか、イメージしていただければと思います。



亀田 達也 教授

Tatsuya KAMEDA

HP: <http://www.tatsuyakameda.com/>



【研究テーマ・専門分野】

人間のヒトとしての側面に関心を持ち、脳科学、経済学、進化生物学、行動生態学などの他領域の研究者との共同を通じて、社会的意思決定のメカニズムについて研究しています。現在、私の中でホットな（＝現在進行中の）研究領域は、以下のとおりです。

（１）「集合知」の認知・生態学的基盤の理解

群居性動物であるヒトは、集団に大きく依拠した生活様式をもっています。それでは集団生活に伴うコストとベネフィットはどのような形で統合・処理されるのでしょうか。同じく群居性動物である社会性昆虫（ムネボソアリ）を研究しているアメリカの生物学者と共同しながら、「集団の知恵」を支える認知・行動アルゴリズムを理解しようとしています。

（２）「正義」の脳科学的・行動的基盤の理解

ヒトを人間たらしめる属性として、「正義」や「規範」といった価値に関わる概念をあげることができます。これまで人文学の対象であったこうした高次概念がどのような生物的基盤をもっているのか、脳科学者、経済学者、法哲学者と共同して研究を進めています。

（３）「共感性」の認知・神経基盤の理解

同じく高次属性として考えられがちなヒトの「共感性」が、ほかの動物種とどこまで連続的で、またどのようにユニークなのか、脳科学者、生物学者と共同して研究を進めています。

【行動科学の魅力】

社会心理学を含む「行動科学」の魅力は、人文学・社会科学が数千年にわたって蓄積してきたさまざまな「知恵」を、脳科学や生物学の「知見」とつなぐ役割を果たし得ることにあると考えています。その意味で、さまざまな技術を貪欲に取り入れて先端研究を進めることの醍醐味こそが、私にとっての行動科学の魅力でしょう。

【学生に求めるもの・駒場生へのメッセージ】

好奇心をもつと人生はとても豊かになります。「なんでも見てやろう」という気持ちが大切です。もう１つ、皆さんがいま東大にいるという事実は、「自分が優秀だから」だけではなく、さまざまな社会的恩恵を受けてきたことの結果だと言えるでしょう。そうした恩恵を社会に返ししていくノブリス・オブリージュを感じてほしいと思います。

【おすすめの著書・編著書】

- ◆亀田達也（著）『モラルの起源—実験社会科学からの問い』 岩波新書 （平和な暮らしをいかに築くかという人文社会科学の基本問題に対して、“実験社会科学”の構想を論じたマニフェスト）
- ◆山岸俊男・亀田達也（編著）『社会のなかの共存』 岩波書店 （「平和な暮らしはどのように実現できるのか」というホッブズ以来の問いに、社会学者と生物学者が共同でアプローチした本）
- ◆亀田達也（編著）『「社会の決まり」はどのように決まるか』 勁草書房 （社会規範の成立と維持を支えるようなヒトの認知・感情メカニズムに関する研究がまとめられた本）

唐沢 かおり 教授

Kaori KARASAWA

HP: <http://www-socpsy.l.u-tokyo.ac.jp/karasawa/>



【研究テーマ・専門分野】

様々な情報から、私たちは心の中に「社会」を描き出します。自分や他者、社会的な出来事が、いったい「何者なのか」を理解し、評価します。この過程の背後には、どのような心のメカニズムがあるのでしょうか。この問いを、特に「Moral agent」（道徳的主体）としての私たちの認知特性に焦点を当てて考えています。私たちは、単に、社会的な情報を処理して理解するだけの存在ではなく、自分や他者、社会全体を、「道徳的に良いか悪いか」という観点から評価することに志向づけられている存在です。その存在を支えている心の仕組みについて、他者の「心の推論」と対人判断や対人行動との関係や、自由意志に対する考え方が自己制御に及ぼす影響、ライセンス（自分自身に対して与える「権利や許し、言い訳」）と道徳的行動との関係を中心に検討しています。また「応用問題」として科学コミュニケーションや実験哲学的なプロジェクトにもかかわっています。

【社会心理学の魅力】

複雑な社会や自分とは異なる他者、さらには社会的存在としての自分自身について、分析的に考え、自分なりの社会観、人間観を作り上げるための道具と方法（概念や理論、思考様式）を提供してくれることです。

【学生に求めるもの・駒場生へのメッセージ】

自分がいまだ把握していない「知」に対する敬意と、それを吸収しようとする貪欲さ、そして、自分が得たものを、よりよい形で現実の社会やこれまでに築かれた知の体系に還元していこうとする意欲を持ってください。学問は世界をのぞき見るための「窓」でもあります。そこから見える景色は、窓によって、少しずつ違うけれども、皆さんが「本質的だ」と思える景色が見える窓が見つかりますように。

【おすすめの著書・編著書】

- ◆唐沢かおり（著）なぜ心を読みすぎるのか：みきわめと対人関係の心理学 東京大学出版会（心を斟酌し他者を評価することで繰り広げられる人間関係と、その背後にある心的過程を論じた本）
- ◆唐沢かおり・林徹（編）人文知Ⅰ 心と言葉の迷宮 東京大学出版会（東大文学部の多様な魅力を伝えるシリーズの一巻目です）

村本 由紀子 教授

Yukiko MURAMOTO

HP: <http://www.ym-lab.com/jp/>



【研究テーマ・専門分野】

さまざまな社会環境と、そこに身を置く個人の心理・行動傾向とのダイナミックな関係に関心を持ち、以下のような研究に従事しています。

(1) 関係性の視点に基づく「心の文化差」の理解…欧米人とアジア人の心理・行動傾向には多くの文化差があると言われますが、ひとりの人間が身置いているのは、アメリカ文化、日本文化などトラベルづけされるような一枚岩の文化ではありません。人は他者との多彩な関係性に幾重にも取り巻かれ、各々の関係性に応じて異なる心的過程を生起させます。欧米の研究者とも連携しつつ、そのメカニズムの解明を目指します。

(2) 集団規範や文化的慣行の生成と再生産過程…組織や集団、共同体には、明文化された規則のみならず、暗黙のルールが数多く存在し、知らず知らずのうちに成員の心理や行動を規定しています。そうした規範や慣行はいかにして作られ、維持されるのか。産学連携の企業調査や地域社会でのフィールドワークなどの「現場」に根差した研究と、実験的手法を駆使して「理論」構築を目指した研究とを両輪として、この問題にアプローチしています。

【社会心理学の魅力】

ある企業で実績を残した経営者でも、別の企業で再び手腕を発揮できるとは限りません。優勝したスポーツチームが、同じメンバーで翌年には沈むこともしばしばです。なぜ？組織や制度だけを眺めても、個々の人間だけを眺めても、その答えは見えてきません。「社会」と「心」のダイナミックな関係を探究することの醍醐味が、ここにあると思います。

【学生に求めるもの・駒場生へのメッセージ】

「書を持って街へ出よう」。社会心理学の問いは現実の社会生活のなかにあります。だからこそ、アタマとカラダの両方を動かすことをいとわない、元気と意欲を求めます。学問で得た知識や理論を、私たちが生きる日常の現場に結びつける視点をもつことは、卒業後に選ぶ進路がどのようなものであれ、きっとみなさんの役に立つと思います。

【おすすめの著書・編著書】

- ◆ 池田謙一・唐沢穰・工藤恵理子・村本由紀子『New Liberal Arts Selection 社会心理学』有斐閣（組織、集合行動、文化に関わる諸問題に多くの紙幅が割かれています）
- ◆ R. E. ニスベット著・村本由紀子訳『木を見る西洋人 森を見る東洋人』ダイヤモンド社（文化心理学の知見を広く学ぶために。と同時に、本書の議論をいずれ越えていくために。）

大坪 庸介 准教授

Yohsuke OHTSUBO

HP: <http://www.l.u-tokyo.ac.jp/~yohtsubo/>



【研究テーマ・専門分野】

人間の社会行動の適応的基盤に関心を持ち、生物学のモデルを援用しながらヒトという社会的動物の行動を研究しています。

（１）シグナリング・ゲームとしての対人相互作用

対人相互作用をシグナルによる情報共有という観点から考えています。しかし、情報共有のための正直なコミュニケーションは適応的なのでしょうか？ 相手を欺くために情報を隠したり、偽情報を伝達する方が競争で有利にはならないのでしょうか？ ところが、動物たちの正直なシグナルの例は枚挙にいとまがありません。正直なシグナルの進化のモデルをヒトの対人相互作用に適用しながら、私たちのコミュニケーションのあり方を研究しています。

（２）評判・罰に基づく協力とそれを支える感情のはたらき

私たちヒトという種は、評判や罰を利用して大規模な協力を維持できる例外的な動物とされています。しかし、評判や罰により協力が維持されるのは、評判であれば自尊心や恥、罰であれば義憤や罰されることへの恐れといった感情が私たちに備わっているからでしょう。ヒトの大規模な協力、そしてそれを支える感情の役割について研究しています。

【社会心理学の魅力】

社会心理学という学問分野は、私たちの行動の規定因として人側の要因（性格や態度）よりも状況要因を重視します。この考え方が根本にあるからこそ、客観的に測定した状況要因から平均的な人々の行動を予測しようとする発想が生まれます。つまり、社会心理学は文系の問題（人間行動の理解）を理系の道具（数理モデル）で解決するスキル（データサイエンス時代に必須のスキル！）を磨く場でもあるのです。

【学生に求めるもの・駒場生へのメッセージ】

これまでは与えられた問題を解くことが多かったと思います。これからは、自分で設定した問題を、自分で解決することになります。社会心理学の問題は裾野が広く、解決方法に絶対的な正解はありません。従来の社会心理学の方法では飽き足らず、もっと違う分野の方法を使ってみようと思うかもしれません。自分が設定した問題にコミットし、どんな方法を使ってもより良い解に近づこうとする知的探求への情熱をもってください。

【おすすめの著書】

◆北村英哉, 大坪庸介 『進化と感情から解き明かす社会心理学』 有斐閣 （人の社会行動の理解に進化という観点がどのように役に立つかを説明しています）

◆大坪庸介, アダム・スミス 『英語で学ぶ社会心理学』 有斐閣 （状況要因の力を中心に社会心理学の古典研究を集めた教科書になっています 共著者名は本人曰く「全くの偶然」です）

岩谷 舟真 助教

Shuma IWATANI

HP: <https://sites.google.com/site/siwatani0227/>



【研究テーマ・専門分野】

文化心理学の視点を持ちつつ、グループ・ダイナミックスに関わる内容を研究しています。より具体的には、集団メンバー同士の相互作用のなかで、1人1人のメンバーの意図や行動には還元されない現象が集団レベルで発生するプロセスに関心を持っています。たとえば、集団メンバー同士が互いに他の人の心を読み合うなかで、各々の集団メンバーは賛成してはいない規範や慣習が生起・維持するに至るメカニズムや、そうした現象が発生しやすい社会環境について、実験室実験や社会調査の手法を用いて研究しています。

【社会心理学の魅力】

社会心理学は場合分けして考えることが多い学問だと思っています。この現象はある人（例えば自尊心が高い人）には成り立つが、そうでない人には成り立たない。なぜなら〇〇だから。あるいは、この現象はある環境（例えば農村社会のように人と人との関係が比較的固定化した環境）では成り立つが、そうでない環境では成り立たない。なぜなら〇〇だから。といった具合です。他の人について理解することは極めて難しいことですが、社会心理学のトレーニングを行ううちに自分と異なる立場の人にとっての当たり前を少しずつ分かった（ような気になった）り、自分にとっての当たり前を相対化できた（ような気になった）りするの、この学問をやっていて良かったと思えることの1つです。

【学生に求めるもの・駒場生へのメッセージ】

まず、消去法ではなく積極的な気持ちで進学先を選択できるよう、色々な本を読んだり色々な授業を受けたりしてみしてほしいです。きっと、自分が面白いと思える学問に出会えると思います（私は文科2類で入学しましたが、社会心理学が面白いなと思ったので進学先を社会心理学に変えました）。それがもし社会心理学であるならば、本で書かれている内容が日常生活や社会のどの現象に当てはまるかを考えてみたり、逆に日常生活での違和感をもう少し深掘りしてみたりすると良いと思います。

【おすすめの著書】 他の方が書いた本ですが、いくつかご紹介します。

- ◆ 増田貴彦・山岸俊男著『文化心理学〈上〉〈下〉』培風館
文化心理学について幅広く記された教科書。主張の異なる2人が一緒に書いています。
- ◆ 國分功一郎・熊谷晋一郎『〈責任〉の生成 ― 中動態と当事者研究』新曜社
責任帰属の問題は社会心理学でもたくさん扱われていますが、本書はより現場に根ざしているという点に特徴があります（著者は社会心理学者ではない）。対話形式で書かれているので読みやすく、ここ最近で1番面白いと思いました。

●○●社会心理学研究室の授業●○●

1. 概論

基本的には講義形式により、社会心理学に関する様々なテーマを学んでいきます。人間の社会的行動をどう理解すればよいのか、人間という「社会的動物」をどう分析していくかなど、卒論にも通じる科学的視点を養うことができます。※3年のSセメスターに2コマ開講されます。

2. 特殊講義

概論に比べ、やや焦点を絞ったテーマについて、その第一線の先生からの講義、あるいはディスカッションを通して理解を深めていきます。講義の例（2021年度）として、「文化心理学」、「政治行動の社会心理学」、「行動意思決定論」などがあります。「専門社会調査士」の資格取得のために必須となる「統計学」に関する講義も開かれています。

3. 演習

社会心理学の中でも「今が旬」のトピックについて、関連する論文を皆で講読したり、担当者がその割り当て分を発表したり、それをふまえてのディスカッションやグループワークを行ったりします。概論と最も大きく異なる点は、①講義形式ではなく参加型の授業であるということ、②特定の問題について深く掘り下げた学習や議論ができるということです。大学院生のTAがいる場合もあるので、経験値が異なる人たちとのコラボレーションにより、非常にユニークなアイデアが生まれることも多々あります。※毎学期開講される2コマのうちから1つを選んで履修する必要があります。

4. 実習

社会心理学専修課程では、研究の方法論を学ぶための実習科目を設けています。2年のAセメスターでは、「社会心理学調査実習」および「心理学実験」が開講されます。

調査実習では、何人かのグループに分かれて仮説を立て、それを検証するための調査票を身近な人たちに配り、そのデータを収集・分析することで、調査の具体的手法について学びます。調査実習では、同学年だけでなく教員やTAとも活発に意見交換しますので、研究室内の人たちとの仲が自然に深まります。

心理学実験では、毎週、授業時間中にシンプルな実験を行い、実験内容と分析方法についての講義をふまえて、実験データを分析しレポートにまとめます。分析手法やレポート作成のルールについて、基本的なことを学べます。

さらに、本郷進学後には、社会心理学実習の授業を受講し、研究の現場に入ることによって研究能力を身につけます。この授業では、特定のテーマの下、グループに分かれ、院生と一緒に実験・調査・フィールドワークなどを行います。仮説を立てるところから研究デザインの設定、実施、分析と進み、最後に発表会を行います。学部生数人に対して院生が1人つく少人数制なので、研究のやり方についてじっくり学ぶことができ、今後何かと頼りにできる院生とも仲良くなれます。

5. リサミ

「リサーチミーティング」の略称で、いわば「卒業論文について相談する時間」です。4年生になると、その間の1年間をかけて、卒業論文を執筆することになります。リサミでは、卒業論文の仮説構築・先行文献の選定・調査/実験方法の検討など、様々なことを教員やTAに相談することができます。



参考として、2 年次の A セメスターと 3 年次の S セメスターの週間予定表の例を挙げておきます。



2 年次・A セメスター（例）

	月	火	水	木	金
1					
2	英語後期(2)		経済学研究 1		社会心理学 統計 1 (必修)
3	社会心理学 調査実習 (必修)	心理学実験 (必修)			行動適応論
4				統計 I	心理学研究法
5		心理学概論		統計 I	こころの 総合人間科学 概論



3 年次・S セメスター（例）

	月	火	水	木	金
1					
2		社会心理学 統計 2 (必修)	社会心理学 概論 2 (必修)	社会心理学 実習	社会心理学 特殊講義
3	社会心理学 演習 (選択必修)	社会心理学 概論 1 (必修)	情報メディア 論		美学芸術学 特殊講義
4		心理学 特殊講義	社会学 特殊講義		
5			心理学 特殊講義		

●○●卒業・修了について●○●

学部4年生になると、卒業論文（卒論）もしくは特別演習（特演）に取り組むことになります。毎年の先輩の様子をみると、やはり卒論の執筆を選択する人が多いようです。卒論では、自分の興味や関心に基づき仮説を立て、調査や実験を行って得たデータからそれを実証することを目指します。特演の場合は先行研究の考察が中心で、集めた論文や研究から自分の仮説を検証していくことになります。このどちらかを提出することが学部の卒業要件ですが、どちらを選んでも調査・実験・統計の授業で学んだことをフル回転させて挑む、あなた自身の「大学生活の集大成」になることは間違いありません。

大学院に進学し、修士課程（博士課程前期ともいいます）では、卒論や特演以上に内容を掘り下げた、本格的な研究をすることになります。

ちなみに、これまで各教員が指導した卒論と修論のテーマを一部挙げておきます。社会心理学の扱うテーマの多様さが感じられると思います。

卒論

- ◆暗黙理論がサunkコスト効果に与える影響：投資の性質に着目して
- ◆社会環境の発達の影響による喫煙態度の変化
- ◆コロナ禍の規範遵守行動に影響する他者要因の検討
- ◆不公平状況回避の心理メカニズム
- ◆溜め込みを引き起こすモノとアニミズム的思考の関連性について
- ◆しごきはなぜ起きるのか —システムで捉える機能的側面に着目して—
- ◆再分配はリスク分散として機能するか
- ◆関係流動性が対人関係におけるコントロール方略に与える影響：日米の違いに着目して
- ◆異なる感謝介入法が幸せに与える影響の比較・検討
- ◆長崎県壱岐市を舞台とした中高生の同調圧力と起業家精神の関係

修論

- ◆遺伝的知識が社会的排斥に与える影響
- ◆Arginine Vasopressin Enhances Human Defensive Aggression
- ◆ヒト摂食行動の社会的促進における共食者の脅威レベルの影響の検討
- ◆多数派のふるまいが第三者の制裁行動に及ぼす影響：応報的動機に着目して
- ◆個人の社会的価値志向性と商品特性に関する社会的評価が購買行動に及ぼす影響
- ◆社会ネットワーク構造はいかに集合知に寄与するか —時間的変動環境における検討—

過去の卒論・修論の題目は研究室ウェブサイト 리스트を掲載しています。ぜひご覧ください！

www.utokyo-socpsy.com/theses.html

●○●卒業後の進路●○●

これも大事な関心事ですよ！ これまでの社会心理学専修の卒業生の進路は、大学院の他、民間企業、情報産業、官庁など多岐にわたっています。人事、教育、調査、取材、システム・エンジニアリングなど、実習で学んだことを活かせる部門に配属されることが多いようです。近年の卒業生・修了生の就職先（一部）を以下に紹介しておきます。



アクセンチュア、伊藤忠エネクス、外務省、厚生労働省、財務省、シグマクシス、資生堂、住友重機械工業、ソニーデジタルネットワークアプリケーションズ、NHK、ドイツ銀行、東京建物、内閣府、フォースバレーコンシェルジュ、ブリヂストン、三菱ケミカル、三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング …etc.

どうでしょう？卒業後のイメージを感じていただけましたか？

もちろん、大学院に進学する学生も多いですよ！（近年では、東京大学大学院のほか、京都大学や北海道大学の大学院など）

●○●研究室の雰囲気●○●

実習系の授業や卒業論文では、教授陣・大学院生・学部生と一緒に議論していくスタイルが多いです。いまはオンライン形式でディスカッションを行っています。

卒論について、先生や院生を
交えてミーティング



演習授業で、読んだ論文の内容を報告中



卒論発表会ではポスター形式で自分が
行った研究について報告します



学生控え室で、和気藹々と、研究に関する
ディスカッション？はたまた雑談？

研究室スタッフ同、
皆さんの進学を
お待ちしております！



Email : sphisho@L.u-tokyo.ac.jp